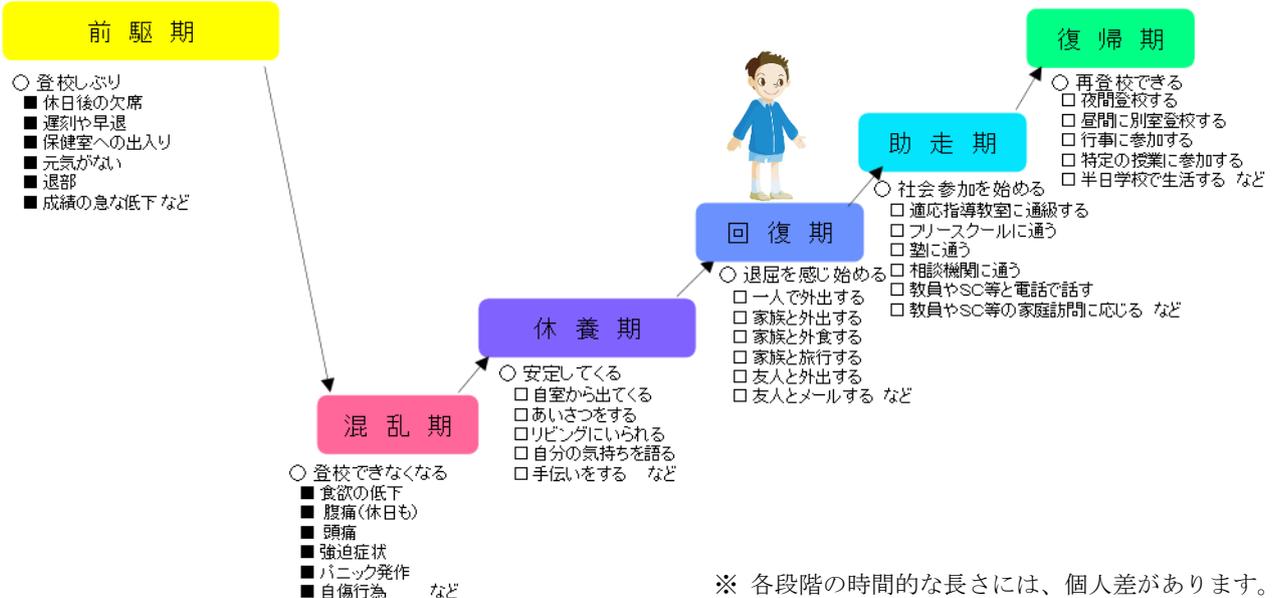


「できる援助」で継続援助を

困っている児童生徒の状況（段階）によって、必要な援助は様々で多岐にわたります。私たちが、そのすべてをできるとは限りません。つまり、援助する教員や保護者にとって、「やるべき援助」と実際に「できる援助」が、必ずしも一致するとは限りません。無理な援助内容（計画）は、長くは続きません。作成した「援助チームシート」が有効にはたらくよう、実際に「できる援助」の中から、最も「やるべき援助」に近いものを探して、継続した援助を行いましょう。

〔不登校の始まりと学校復帰までの経緯（例）〕



困っている児童生徒は、心の中に、不安や葛藤や混乱を抱えています。援助を受ける子どもが方向性を見失わないために、援助チームには一貫した「援助方針」が必要です。「援助方針」が子どもの現状からかけ離れていては、援助が具体的になりません。困っている児童生徒の状況（段階）を見極め、実現可能な目標や、「今は無理に登校を促さない」などのチームの約束を方針に盛り込み共有しましょう。共有した「援助方針」の下、その子が適切な行動ができるように、今、その子にどんな援助が必要かを考えて、「できる援助」を実行しましょう。

〔援助方針を探す検討の視点〕

〔援助方針〕

- 適切な行動ができるように
その子にどんな援助が必要か？
- 適切な行動ができるように
その子にどんな環境が必要か？

できる具体的な援助

〔援助〕

どんな援助を
誰が
いつからいつまで行うか